

トラックの巻き込み防げ



左側面の歩行者や二輪車を検知するAIカメラを搭載したトラック



運転席のモニターでAIカメラの映像を確認できる

トラックが左折する際、NX徳通など運送会社を巻き込み事故を防ごうと、徳島県で「巻き込み事故対策協議会」が発足する。食品充填機の四国化工機（同県北島町）と車載機器開発のエルピス（東京・千代田）が中心となり、2025年1月23日に設立総会を開く。地元の運送会社など15法人が参加する。人工知能（AI）を使った巻き込み防止装置の普及や啓発などに取り組む。

設立時点では県内に本拠地を置く大輪総合運輸や新居建設運輸、誠徳運輸、

「雪食品」（同県鳴門市）を運営する子会社「さと」の基本的な外部に委託しているが、日常的にトラックを利用する企業としての社会的責任も踏まえ、車載機器のエルピスに事故防止への協力を求めた。

「思えない」と話す。四国化工機は豆腐を製造販売する子会社「さと」

四国化工機など AI 装置普及や啓発活動

巻き込み防止装置は現在、電磁波を使ったミリ波レーダーによる感知システムが主流だ。ただ側面でも静止している自転車などは認識しにくい面があるという。両社は23年5月から地元の運送会社など延べ14社の協力を得てAIカメラの実証実験を進め、判別の精度を高めてきた。

協議会の設立を機に、AIの深層学習（ディープラーニング）に必要なデータを収集するための協力者をさらに増やす考えだ。システムの改良や普及に加え、子供たちへの交通安全の啓発活動にも力を入れる。任意団体でスタートし、将来はNPO法人化などを検討する。

トラックによる巻き込み事故の防止に向け、地方の民間企業が連携して新組織を立ち上げる例は全国でも珍しいとみられる。